

第512回 史跡めぐり
令和4年3月12日(土)

早春の石仏めぐりと観梅

「元荒川」の新旧「河道」の変遷をたどり
個性的で特色豊かな「石仏」をめぐりながら
「観梅」も楽しめます！



イラスト:高橋 誠一様

案内者:副会長 秦野 秀明・常任理事 河内 出
理事 瀧田 雅之・理事 福田 博・実行委員 須藤 賢一

NPO 法人 越谷市郷土研究会

順路：徒歩 約 5.58 km

東武鉄道「大袋駅」東口に集合 午前8時30分 旧 埼玉郡 越ヶ谷領 袋山村

元荒川河道跡（袋山古川（開渠）） 旧 埼玉郡 新方領 下間久里村

下間久里不動堂（開演寺跡）・「西新方」刻字の「観音像百堂巡礼塔」

大里稻荷神社 旧 埼玉郡 新方領 大里村

「八寸坎跡（暗渠）」

秀蔵院跡・「西新方」刻字の「阿弥陀如来像念仏供養塔」

・「岩槻型青面金剛像庚申塔」

日光道中・A家路傍・「勢至菩薩像」

日光道中路傍・「標石」

日光道中・B家路傍・「青面金剛像庚申塔」

日光道中路傍・「標石」× 2

「馬頭観音像」

根河原緑道・元荒川河道跡（袋山古川（暗渠）） 旧 埼玉郡 新方領 大林村

大林香取神社（トイレ休憩）・「大林河畔砂丘」

・「岩槻型青面金剛像庚申塔」

梅林（遠望）

梅林公園（トイレ休憩）

元荒川緑道

北越谷第5公園（トイレ休憩） 旧 埼玉郡 新方領 大房村

押立堤・「青面金剛」文字塔」

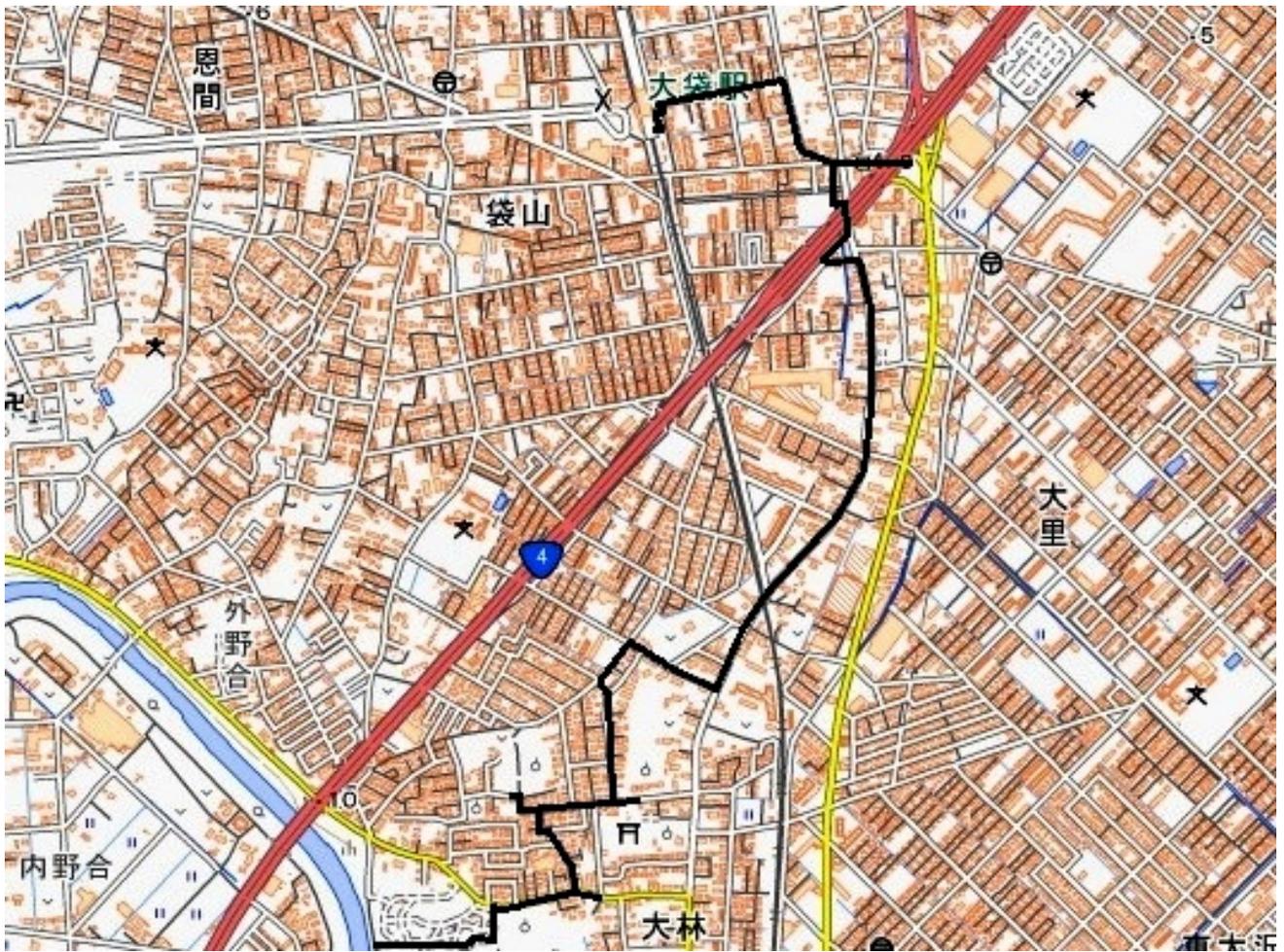
元荒川緑道・棚裏

北越谷（大房）稻荷神社・「北越谷河畔砂丘」

・「山王二十一仏板碑」

浄光寺（梅林）・「五智如来像（五体）」

東武鉄道「北越谷駅」西口で解散 午後0時30分頃 旧 埼玉郡 新方領 大澤町



「地理院地図（電子国土Web）」を加工して引用



旧 埼玉郡 新方領 下間久里村

元荒川河道跡（袋山古川（開渠））

見どころ

- a. 「袋山河畔砂丘」を形成したと推定される中世までは、「**利根川**」本流であった。
- b. 「荒川」本流であった「綾瀬川」が分離されたと推定される中世後期からは、「**荒川**」本流であった。
- c. 「荒川」本流より分離された寛永六年（1629）より「（袋山）古川」が締切られた宝永三年（1706）または宝永四年（1707）までは、「**元荒川**」であった。「大宝律令」（701）により施行された「国郡里制」の制定された古代（推定）より近世以前（推定）までは、「**武蔵国**」と「**下総国**」の「**国境**」であった。

「袋山古川」について詳しく知りたい方へ

出典：

武井 尚（1993）

「利根川の流路と国境」『中川水系 人文』埼玉県 pp.113-120

太田 富康（1993）

「古代・中世の河川と交通」『中川水系 人文』埼玉県 pp.180-199

平社 定夫・佐藤 和平（1993）

「河畔砂丘」『中川水系 総論 自然』埼玉県 pp.82-118

秦野 秀明（2022）「袋山古川」旧河道にある「暗渠」の現況」

http://koshigayahistory.org/220131_fukuroyama_furukawa_h_h.pdf

「下間久里不動堂（開演寺跡）」

「開演寺 新義真言宗、末田村金剛院の末、春日山と号す、本尊**不動**を安ず」

「庵 阿弥陀を安ず 開演寺の持」

出典：『新編武蔵風土記稿』

見どころ

1 . 安永元年（1772）「出羽三山」供養塔

出典：加藤 幸一（2019）『桜井地区石仏 令和元年8月改訂版』

越谷市立図書館蔵

以降は、加藤 幸一（2019）『桜井地区石仏』と表記

2 . 文政八年 (1825) 「十一面観音」文字塔

出典：加藤 幸一 (2019) 『桜井地区石仏』

3 . 文政八年 (1825) 「青面金剛」文字庚申塔

出典：加藤 幸一 (2019) 『桜井地区石仏』

4 . 延享四年 (1747) 「弁財天」文字塔

出典：加藤 幸一 (2019) 『桜井地区石仏』

5 . 寛文五年 (1665) 三猿庚申塔

出典：加藤 幸一 (2019) 『桜井地区石仏』

6 . 文政四年 (1821) 「千庚申」文字庚申塔

出典：加藤 幸一 (2019) 『桜井地区石仏』

7 . 宝暦九年 (1759) 「勢至菩薩」文字塔

出典：加藤 幸一 (2019) 『桜井地区石仏』

8 . 寛文五年 (1665) 観音像百堂巡礼塔

出典：加藤 幸一 (2019) 『桜井地区石仏』

「西新方」と刻字されている。

「西新方」について詳しく知りたい方へ

出典：秦野 秀明 (2022) 「西新方と東新方」書き下ろし

「西新方」の地名が刻まれた「金石資料」は、
管見の限り以下の**3点**です。

旧大里村秀蔵院跡・寛文三年 (1663) 阿弥陀如来像念仏供養塔

2017年2月23日、秦野 秀明確認 「武州**西新方**大里村」

旧下間久里村不動堂・寛文五年 (1665) 観音像百堂巡礼塔

加藤 幸一氏確認 「武州**西新方**下間久里村」

旧大澤町香取神社・天和二年 (1682) 石手水鉢

秦野 秀明確認 「武州**西新方之内**大澤町」

先行研究 (注1) において、

中世：下総国葛飾郡下河辺荘「新方」

近世：武蔵国埼玉郡「新方領」

という地域が存在したことは、

複数の「史料」及び「金石資料」により確認出来ますが、

さらに、「西新方」の地名が刻まれた3点の「金石資料」により、

中世から近世への移行期である近世前期の

寛文三年 (1663) より天和二年 (1682) までは、

当該地域を「西新方」と「東新方」に分けて認識していたことが確認出来ます。

(注1) 出典：

原田 信男 (1999)

「中世荘園の復原と近世郷荘名」 『中世村落の景観と生活』

思文閣史学叢書 pp.54-73

実松 幸男 (2010)

「近世後期～幕末期における地域住民の下河辺荘新方の記憶

-新方領と新方荘をめぐって-

『金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究』

「東新方」の「地名」が記載された「史料」は、
管見の限り以下の**3点**です。

「寛永六年(1629)九月 大松清浄院領検地帳」

(大松清浄院蔵)

「(表紙)寛永六年巳九月廿日 武州騎西郡**東新方之内**

六ヶ村清浄院領御検地帳」

「元禄八年(1695)十一月 大松清浄院等開山并由緒書」

(大松清浄院蔵)

「武蔵国崎(ママ)玉郡**東新方領**大松村、栄広山浄土寺清浄院」

「武州埼玉郡**東新方領**川崎村 大(ママ)子山聖徳寺」

「武州埼玉郡**東新方領**船戸(ママ)村 仏説山無量院」

「武州埼玉郡**東新方領**大杉村 医王山浄閑寺」

「武州埼玉郡**東新方領**船渡村 弘福山竜正寺」

「武州埼玉郡**東新方領**大松村 善照山想真寺」

嘉永四年(1851)写し「六ヶ村栄広山由緒著聞書」(大松清浄院蔵)

「葛飾 **東新方領主** 向畑城主 新方次郎太夫頼希主」

出典：

越谷市史編さん員会編(1973) 『越谷市史 三 史料一』 越谷市役所
pp.183-185

越谷市史編さん員会編(1973) 『越谷市史 三 史料一』 越谷市役所
pp.874-878

越谷市史編さん員会編(1973) 『越谷市史 三 史料一』 越谷市役所
pp.928-936

旧 埼玉郡 新方領 大里村

「大里稻荷神社」：旧 大里村鎮守

「稻荷社 鎮守なり」

出典：『新編武蔵風土記稿』

見どころ

1. 文政十三年（1830）（不明）石塔

出典：加藤 幸一（2019）『桜井地区石仏』

「八寸塚（はっすんいり）跡」

「**八寸塚跡**」について詳しく知りたい方へ

出典：

秦野 秀明（2022）

「**「袋山古川」「須賀用水」と「八寸塚」の関係**」**書き下ろし**

a. 2017年2月23日、秦野 秀明は、
管見の限り、「存在位置」が長らく不明であった
袋山村細沼家文書（注1）に記載される「八寸塚」を、
住民への「聞き取り調査」により、屋号「八寸」の家屋が存在する
「袋山古川」と「須賀用水」及び「日光道中」が近接する「位置」に
特定することが出来ました。

b. 現在、「旧 袋山村内」を暗渠として
西北西より東南東及び東へと流下する「須賀用水」は、
明治三十九年（1906）に測図の「5万分の1地形図」
には記載されずに、
昭和三年（1928）に測図の「5万分の1地形図」
には記載されていますので、
明治三十九年（1906）より昭和三年（1928）までの間に、
新たに「直道化」したルートとして開削されたことが推測出来ます。

この「直道化」のルートは、意図して計画されたと推測しますが、
他ならぬ「袋山古川」との合流地点であった「八寸塚」跡を経て、
「袋山古川」の悪水の落とし先の一つであった
「須賀用水」へ合流しています。
「須賀用水」は当時の「千間堀」（現在の「新方川」）へ合流。

c. 「須賀用水」の流路は、
明治三十九年（1906）より昭和三年（1928）までの間に、
新たに「**直道化**」したルートとして開削されたと推測しましたが、
それまでは、
北に凸の形で曲流している「袋山古川」の「左岸側」に沿って
同様に曲流していました。

以上のことから、

新たに「袋山古川」を2度に渡って横切りながら、
「旧 袋山村内」を「直道化」したルートとして開削した事実は、
「元荒川」が
宝永三年（1706）または宝永四年（1707）に
「直道化」される以前に、
「須賀用水」が既に開発、開削されていたと推測出来ます。

袋山村細沼家文書（秦野 注1）によると、
大竹村地先から袋山村を迂廻した元荒川の曲流部分は、
宝永3年（1706）、
荻島村地内を直道に疎鑿された新川によって古川に化した。
袋山村ではこのとき村内の悪水落しを
大林村境の古川×切箇所に 坎樋を設けて元荒川に落した、
瓦曾根溜井の堰止の影響で次第に元荒川の川床が高くなり、
川水が逆流してくるなど悪水落し坎の機能が失われた。
このため悪水落し場を失なった袋山村は、
恩間坎によって古川に落される岩槻領17ヶ村の悪水をうけ、
袋山村耕地は常時湛水状態にあった。

袋山村はしばしば恩間坎の取払いを訴願してきたが
いずれも敗訴に終わっていたので、
元文2年（1737）
こんどは恩間村坎を掛渡樋に模様替えすることを奉行所へ強く訴願した。
つまり坎樋を高くして流量を制限しようとしたのである。
これに対し上郷17ヶ村は、
古川に悪水が滞留したときは、臨時に恩間坎の坎戸を塞ぎ、
この悪水を須賀掘や千間掘へ落してきたが、
それでさえも悪水を落し切れず、17ヶ村耕地はことごとく水損をうけた。
ここで恩間坎を掛樋にして流量を制限されては、
いよいよ悪水が滞り、村々は相続できないと反論して争った。

奉行所では、普請役人を出張させ、論所の实地検分を行わせたが、
その結果恩間坎は築き止めとなり、
岩槻領17ヶ村の悪水は、
大里村地内の八寸坎通り長さ2,600間（秦野注 約4,68km）の
古堀浚渫切広げによって千間掘へ落されることになった。
ただし奉行所のこの裁許では、
八寸坎通りの掘筋が悪水を呑みきれないときは、
恩間坎を切開いてこれを古川に落し、
相互に悪水の落し口を調節するとあるので、
おそらくその後も、

岩槻領 17ヶ村は、不完全な八寸塚通り古堀の悪水滞留を口実に、
恩間塚から袋山村古川に悪水を落していたようである。

このため袋山村では、寛政3年(1791)と天保13年(1842)にも、
八寸塚を切広げ
岩槻領の悪水を袋山村の古川に落さないように訴願をくりかえしたが、
いずれも示談による取はからいを申渡され、訴願が成功しなかった。
こうして恩間塚争論は、明治まで持越されて争われたのである。

出典：

竹内 誠・本間 清利(1975)

『越谷市史 第一巻 通史上』越谷市 pp.1038-1039

袋山村細沼家文書(秦野 注2)によると、
宝暦7年(1757)5月関東一帯は大風雨による大水になった。

このとき

恩間村と袋山村の境に設けられていた水除堤を、
恩間村の農民が強引に切割って、
上郷村々に溢れた氾濫水を袋山村に落した。

このため大きな被害を受けた袋山村は

これを支配役所に訴えてた。

この争論は幕府評定所に移されて争われたが、

評定所では用悪水をめぐる争論であるので、

これを内済にするように説得し、

公事宿ともよばれ訴訟を専門に扱った宿泊施設の

江戸宿を仲介人にたてて訴答の折衝にあたらせた。

この結果、

切りくずされた論所堤防は

今までより一尺七寸五分の上置土盛りをほどこし、

そのかわりに

この堤防下に内法五寸五分四方の埋樋を敷設して

恩間村の湛水を当所から落す。

このほか

恩間村地藏院裏耕地の古土手を除いては、

悪水を一切袋山村へ流さない、

という取りきめが示され、

同年(宝暦7年)11月内済となった。

出典：

竹内 誠・本間 清利(1975)

『越谷市史 第一巻 通史上』越谷市 pp.1029-1030

(注1) 「正徳六年三月 恩間村圪潰し願
(「袋山細沼家文書」市史編さん室蔵)」

『越谷市史 第三巻 史料一』越谷市 p.514

(注2) 「宝暦七年十一月 恩間村水除堤切割出入濟口証文
(「袋山細沼家文書」明治大学蔵)」

『越谷市史 第三巻 史料一』越谷市 pp.530-531

「秀蔵院跡」

「秀蔵院 新義真言宗、末田村金剛院の末、春日山と号す、
本尊大日を安ず」

「観音堂」

出典：『新編武蔵風土記稿』

見どころ

1 . 文政十年 (1827) 「永代施餓鬼」供養塔

出典：加藤 幸一 (2019) 『桜井地区石仏』

2 . 享和二年 (1802) 「青面金剛」文字庚申塔 **「盃状穴」有り**

出典：加藤 幸一 (2019) 『桜井地区石仏』

「盃状穴」について詳しく知りたい方へ

出典：加藤 幸一 (?) 「石造物にみられる謎の「盃状穴」」

<http://koshigayahistory.org/67.pdf>

3 . 天保五年 (1834) 「青面金剛」文字庚申塔 **「盃状穴」有り**

出典：加藤 幸一 (2019) 『桜井地区石仏』

4 . **正徳四年 (1714) 岩槻型・青面金剛像庚申塔**

出典：加藤 幸一 (2019) 『桜井地区石仏』

「岩槻型青面金剛像庚申塔」について詳しく知りたい方へ

出典：秦野 秀明 (2014)

「越谷型青面金剛像庚申塔」『古志賀谷』第17号 pp.41-44

<http://koshigayahistory.org/762.pdf>

5 . 文化十一年 (1814) 普門品供養塔

出典：加藤 幸一 (2019) 『桜井地区石仏』

6 . 寛政十一年 (1799) 「青面金剛」文字庚申塔

出典：加藤 幸一 (2019) 『桜井地区石仏』

7 . 年号不詳「大六天」文字塔

出典：加藤 幸一（2019）『桜井地区石仏』

8 . 年号不詳 六字名号塔

出典：加藤 幸一（2019）『桜井地区石仏』

9 . 天保十五年（1844）出羽三山供養塔 「盃状穴」有り

出典：加藤 幸一（2019）『桜井地区石仏』

10 . 年号不詳 「大日如来」梵字宝塔

出典：加藤 幸一（2019）『桜井地区石仏』

11 . 寛文三年（1663）「阿弥陀如来像」念仏供養塔

出典：加藤 幸一（2019）『桜井地区石仏』

「西新方」について詳しく知りたい方へ

出典：秦野 秀明（2022）「西新方と東新方」[書き下ろし](#)
[この冊子のpp.5-6](#)

「日光道中」A宅路傍

見どころ

1 . 元禄十一年（1698）勢至菩薩像

出典：加藤 幸一（2019）『桜井地区石仏』

元禄十一年（1698）勢至菩薩像について詳しく知りたい方へ

出典：秦野 秀明（2019）

「元禄十六年、水野織部長福の見た「勢至菩薩像」」

http://koshigayahistory.org/190311_mizuno_seishibosatsu.pdf

2 . 寛文九年（1669）三猿庚申塔

出典：加藤 幸一（2019）『桜井地区石仏』

3 . 天和二年（1682）釈迦如来像

出典：加藤 幸一（2019）『桜井地区石仏』

4 . 寛政二年（1790）青面金剛像庚申塔

出典：加藤 幸一（2019）『桜井地区石仏』

「日光道中」路傍

見どころ

1 . 「標石」

昭和三十四年（1959）十月、当時の「電電公社」が設置しました。
（2019年5月、坂本 誠一郎氏の確認）

「日光道中」B家路傍

見どころ

1. 宝永七年(1710)青面金剛像庚申塔

出典：加藤 幸一(2019)『桜井地区石仏』

「日光道中」路傍

見どころ

1. 「標石」×2

昭和三十四年(1959)十月、当時の「電電公社」が設置しました。
(2019年5月、坂本 誠一郎氏、大山 晴夫氏の確認)

「桜井分団第一部消防小屋」付近

見どころ

1. 寛政六年(1794)馬頭観音菩薩像

出典：加藤 幸一(2019)『桜井地区石仏』

旧 埼玉郡 新方領 大林村

根河原緑道・元荒川河道跡(袋山古川(暗渠))

見どころ

「暗渠」と「緑道」

「大林香取神社」：旧 大林村鎮守 トイレ

「香取明神社 村の鎮守にて、萬蔵寺の持」

「末社 天神」「明神社 これも萬蔵寺の持、下同じ」「白山社」

出典：『新編武蔵風土記稿』

見どころ

「大林河畔砂丘」

「河畔砂丘」について詳しく知りたい方へ

出典：

平社 定夫・佐藤 和平(1993)

「河畔砂丘」『中川水系 総論 自然』埼玉県 pp.82-118

秦野 秀明(2016)

「河川の造った地形 -越谷市内の河畔砂丘と自然堤防-」

http://koshigayahistory.org/160228_bgs_hh.pdf

秦野 秀明(?)

「「河畔砂丘」形成の法則」

<http://koshigayahistory.org/231a.pdf>

1. 天保六年(1835)「猿田彦」文字庚申塔

出典：加藤 幸一(2019)『大袋地区石仏 令和元年8月改訂版』

以降は、加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』と表記

2．文政十一年（1828）「猿田彦」文字庚申塔

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

3．不詳「天満宮」文字塔

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

4．天保十年（1839）カ 文字庚申塔

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

5．天明八年（1788）「青面金剛」文字庚申塔

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

6．**享保五年（1720）岩槻型・青面金剛像庚申塔**

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

「岩槻型青面金剛像庚申塔」について詳しく知りたい方へ

出典：秦野 秀明（2014）

「越谷型青面金剛像庚申塔」『古志賀谷』第17号 pp.41-44

<http://koshigayahistory.org/762.pdf>

「梅林」（遠望）

「梅林公園」 トイレ

旧 埼玉郡 新方領 大房村

元荒川緑道 トイレ（北越谷第5公園）

「押立堤」

旧 大房村の「**薬師堂**」と旧 大澤町の「光明院**薬師堂**」を結んでいた
「奥州道」と推定される古道にあった「堤」と推定しています。

「押立堤」について詳しく知りたい方へ

出典：秦野 秀明（2011）

「「往古奥州道」と「押立堤」について」『古志賀谷』第16号

pp.27-38

<http://koshigayahistory.org/239.pdf>

元荒川緑道

見どころ

1．寛政三年（1791）「青面金剛」文字庚申塔

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

2．享保十年（1725）光明真言曼荼羅塔

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

元荒川緑道 ・ 「棚裏」

「棚裏」とは、屋号「棚の家」の「裏」という意味です。

2022年、秦野 秀明の「聞き取り調査」によって判明。

「北越谷（大房）稻荷神社」：旧 大房村鎮守

「村の鎮守なり、千手院の持、下同じ」

「 八幡社 辨天社 摩利支天社」

出典：『新編武蔵風土記稿』

見どころ

「北越谷河畔砂丘」

「河畔砂丘」について詳しく知りたい方へ

p.12「大林河畔砂丘」を参照

「永禄元年（1558）山王二十一仏板碑」

日本全国で45基（越谷市内で9基）のみ存在しています。

「山王二十一仏板碑」について詳しく知りたい方へ

出典：秦野 秀明（2021）「第508回史跡めぐり」レジュメ pp.11-13

http://koshigayahistory.org/210414_senbiki_s_m_d.pdf

1．天保十五年（1844）「猿田彦」文字庚申塔

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

2．嘉永六年（1853）「樗宮」文字塔

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

3．文政八年（1825）「猿田彦」文字庚申塔

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

4．元禄六年（1693）青面金剛像庚申塔

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

5．天保十二年（1841）青面金剛像庚申塔

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

6．天保十五年（1844）「猿田彦」文字庚申塔

明治三十二年（1899）改刻

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

7．正徳四年（1714）「弁財天」石祠

左側面に「辨財天女 **千手院**宥」の刻字有り

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

8．文政十三年（1830）「不明」石祠

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

9．元禄九年（1696）「不明」石祠

右側面に「別当 **千手院**」の刻字有り

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

「浄光寺」

「新義真言宗、末田村金剛院末、熊野山観音院と号す、
本尊十一面観音を安ぜり」

「**千手院** 同門徒、熊野山不動寺と号す、本尊不動を安ず」

「東光院 [略]」

「**薬師堂** 相伝へて大同二年飛騨工が一夜に建立せしと云、
さはあれ一夜に建しなど、妄誕論をまたず、
古よりの像は千年賊のために失ひしかば、今の像を安ぜり、
此薬師を**押入の薬師**と唱ふ、其義は知らず、
慶安二年五石の御朱印を賜へり 浄光寺持」

「五知堂」

「地蔵堂 千手院持」

出典：『新編武蔵風土記稿』

見どころ

「五体の五智如来像（越谷市指定有形文化財）」

1．享保六年（1721）光明真言曼荼羅塔 現在、行方不明

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

2．享保十六年（1731）宝篋印塔

「平成二年に薬師堂の廃止とともに浄光寺に移されたのである」

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』

3．天保二年（1831）「猿田彦」文字庚申塔

「もとは日光道中（奥州道中）沿いにの今はなき大房薬師堂
（現、宝性寺別院）へ通じる通路の入口の南側角地にあった」

出典：加藤 幸一（2019）『大袋地区石仏』



時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」((C)谷 謙二)

<https://ktgis.net/kjmapw/index.html> を加工して作成

上段のデータは、「明治39年(1906)測量」の「5万分の1地形図」

「リスト番号 76-1-1」「図名 粕壁」

「発行年月日 昭和6年(1931)9月30日」

「作成機関名 大日本帝国陸地測量部」

を「1画面」で表示

下段のデータは、「昭和3年(1928)測量」の「5万分の1地形図」

「リスト番号 76-1-5」「図名 野田」

「発行年月日 昭和21年(1946)10月30日」

「作成機関名 内務省地理調査所」

を「1画面」で表示

